

12. 観客輸送計画の考え方

愛知万博の観客輸送は、テーマを反映するとともに、観客が快適で円滑な来場ができ、目標入場者数を達成するため、以下に示した方針のもと新しい取り組みを積極的に導入する。

会場へのアクセス

環境への配慮

愛知万博のテーマを反映し、環境への負荷を軽減する来場体系と、それを支えるハード・ソフトの輸送システムを構築する。

- 公共交通の積極的な利用促進
- シャトルバス等への低公害車の積極的な活用
- 愛知環状鉄道の増強や、沿線環境への負荷が少ない新しい公共輸送機関である東部丘陵線の活用

地域への配慮

1500 万人の来場者による会場周辺の道路混雑や住民生活への影響を極力緩和する対策や交通安全対策を講じる。

- ステーション&ライド、パーク&ライド・システムの導入
- 来場者の変動にあわせたフレキシブルな駐車場運営
- 周辺地域の交通の安全と円滑を確保するための各種対策の実施

来場者への情報提供

最新のITを活用して、来場者へのきめ細かい情報提供を行なう。

- インターネットによる事前情報の提供
- 携帯電話やカーナビなどの移動体端末へのリアルタイム情報の提供
- 駅やサービスエリアなどの交通拠点での情報提供

移動時間、移動空間の演出

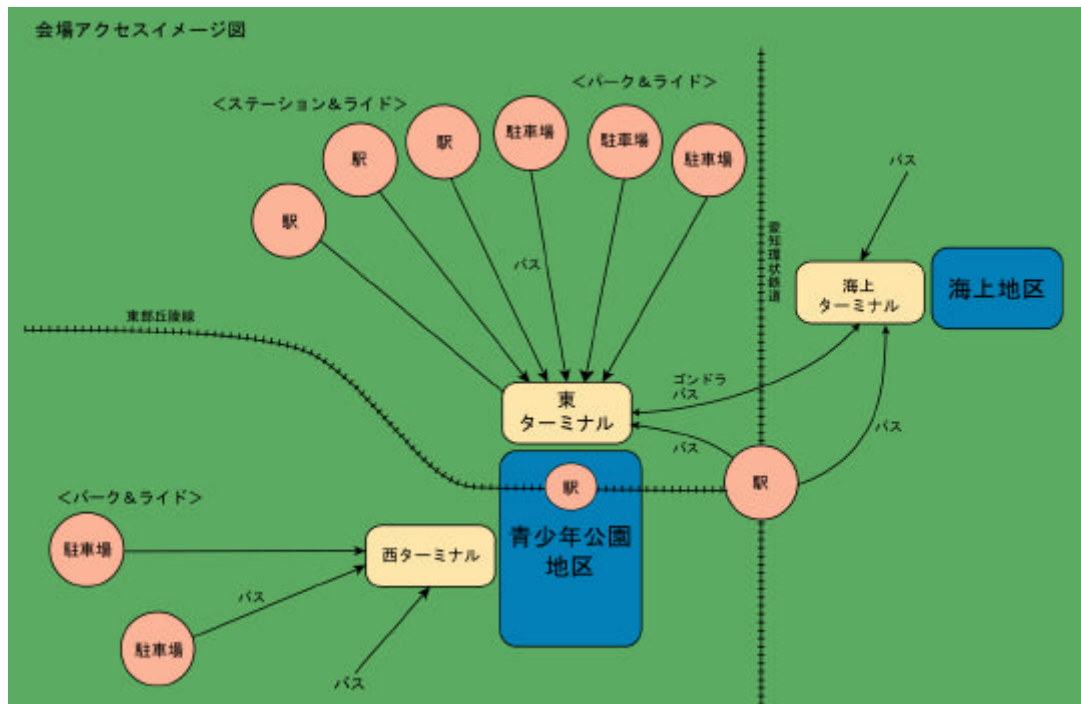
会場までの移動時間においても博覧会としての楽しみが感じられるよう、アクセス自体に演出性を持たせる。

- 会場にアクセスするシャトルバス等のパビリオン化

最適なルートと輸送能力設定

来場者の動向にあわせた適切なルート設定と、十分な輸送能力を備えた交通計画を構築する。

- 航空機を利用したアクセス
- 新幹線を利用したアクセス
- 高速道路からのアクセス
- 周辺地域からのアクセス



地区間移動

ゴンドラによる空中移動

青少年公園地区と海上地区間の移動は、シャトルバスにあわせてゴンドラを導入する。

会場内移動

多彩な乗り物

会場内の移動は、来場者の多様なニーズに対応して、バラエティに富んだ乗り物を用意し、楽しみながら移動できるようにする。

- ピープル・ムーバー（1～数人乗りの小型移動装置）
- ネオ・ビークル（場内を回遊する多人数向けの移動装置）